

体育科の学習指導内容と指導法に関する一考察

—中学校・高等学校のダンス授業における「新聞紙」を用いた実践報告を中心に—

The Principles of Teaching and Learning Contents and the Teaching Methods of Physical

Education: Reviewing Research Papers with a Focus on teaching Dance Classes Using

“Newspapers” as an Extension of the Movement vocabulary at the Junior and High School Level

畑 野 裕 子*

HATANO Yuko

要 旨

体育科におけるダンスの授業では、しばしば身近な「新聞紙」を用いることで学習効果を高めることが指摘されている。本報では、2008年にダンスが必修化された中学校、あるいは高等学校における体育科のダンスの学習指導内容と指導法の特徴を明らかにするために、1989年3月から20年間に及ぶ月刊誌「女子体育」を対象として、「新聞紙」を教材としたダンス学習の実践報告を網羅的に収集し、その内容を検討した。その結果、小学校・大学等と同様に、「新聞紙」の利用によってダンスの授業の導入時における生徒の心理的圧迫を軽減し、心身を解放して多様な動きに繋がるダンスの学習指導内容やその指導法に容易に展開できるということが、多くの実践報告で指摘されていた。このことから、中学校・高等学校においても、「新聞紙」を用いた学習指導は、必修化により初めてダンスを指導する教師にとっても取り組みやすい、効果的な教材であることが再確認できた。

キーワード：ダンス授業、中学校・高等学校、新聞紙

I 緒 言

周知のとおり、中学校・高等学校における体育科の内容の運動領域は、体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンスである。その中でも、「ダンス」は、学校教育の中でどのように取り扱われてきたのであろうか。学校体育におけるダンス教育の変遷に関して、概観してみる。戦後、昭和22年の学校体育指導要綱で、その運動領域名がダンスになり、既成作品を教える

ダンスの授業から、自由に表現する創造的なダンスの授業へと転換が図られた。その後は、体育科の中の「ダンス」として、自らがダンスを創り踊る「創作ダンス」と、仲良く踊って楽しむ「フォークダンス」（外国の民踊、日本の民踊）の内容で構成された（畑野，2008）。

平成元年の学習指導要領からは、生涯教育としての学習内容も広がり、その他のダンスも履修させることができるようになった。また、個人差に

* 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科教授

も配慮され、男女共修や選択性が導入された（文部省，1989a，1989b）。その後、平成10年の学習指導要領において、従来の学習指導要領にみられる①「創作ダンス」（表したいイメージやテーマを全身の動きで自由に表現する）と、②「フォークダンス」（伝承された踊りを身に付けてみんなで一緒に踊る）に加え、新たに③「現代的なリズムのダンス」（現代的なリズムにのって、自由に相手と対応して踊ったり、まとまりのある動きを工夫して踊ったりする）が取り入れられた（文部省，1998，1999）。

平成20年に改訂された現行の学習指導要領においては、中学校と高等学校の「ダンス」の運動は、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」のままであるが、それらの学習指導内容は、より明確化され、体系化されている。さらに、注目すべき改訂点は、中学校1年生・2年生でこれまで選択必修であった武道とダンスが必修となり、ダンスは、男女ともに共修として履修させるようになったことである（文部科学省，2008a，2008b，2009a，2009b）。

平成元年の学習指導要領で体育科において男女共修やダンスや武道の選択制が導入された時期から、教育現場では指導者の戸惑いや課題が生じているのも事実である。さらに、体育科におけるダンスの必修化に伴い、これまであまり指導対象とらなかった男子中学生へのダンス指導をどのように行ったら良いのか等、より多くの課題が呈されている。そこで、例えば必修化により初めてダンス指導に取り組まなければならなくなった男性体育教師にとっても役立つような、取り組みやすいダンス教材の検討や、その指導法の確立あるいは普及が課題と言えよう。

「ダンス」に関する理論的・実践的研究は、幾多かみられる（畑野，1988，1989）が、筆者は、従来から「ダンス」や「表現運動」に関して、指導者の取り組みの観点から授業実施を促進するためのアプローチに焦点化した研究を行ってきた。例えば、小学生の「表現運動」の授業実施を促進するために、教員向けの教員用支援DVDを作成

した（畑野・久山，2011）。そして、これを用いて協力が得られた現場教員に「表現」授業の指導計画から授業実践までの一連の学習指導を行ってもらい、DVDの有用性について検討した（畑野・久山，2012a，2012b）。この教員用支援DVDには、「ウォーミングアップ（リズムダンス）」「新聞紙と遊ぼう」等の内容が含まれ、経験の浅い教員でも理解し実践しやすい工夫がなされている。特に「新聞紙と遊ぼう」は、村田（1998）が紹介した「新聞紙」を用いた授業を参考にして作成しており、身近なものを手軽に利用でき、十分な教育効果も期待できる。また、日本の舞踊教育の母といわれる松本ら（2004）も、雑誌「女子体育」で「新聞紙」を用いた表現の授業・保育を取り上げている。具体的には、「感受するところ 発信するからだ一目で見るダンス授業—」において、「心身を解きほぐす導入」として紹介し、「幼児から大学生まで、アッという間にいつもとは違った世界に連れて行ってくれる課題である」と述べている。

さらに筆者らは、このような特徴を有する教員用支援DVDに収められている学習内容を用いた実践研究を、小学校教員だけでなく幼稚園教員や児童教育学科の学生（将来の幼稚園教員）等に対象を広げて実施してきたが（畑野・久山，2012a，2012b）、中学校や高等学校における「ダンス」教育を想定した検討は未だ実施できていない。また、既報では、「新聞紙」を教材とした実践事例に関して、幼稚園等、小学校、大学（教員養成対象の授業）における授業等の実践報告と、講習会における「新聞紙」を用いた授業等の提示事例に関して検討した（畑野・久山，2015）。しかしながら、中学校と高等学校における「新聞紙」を教材とした実践事例に関しては、未検討であった。

筆者らは、自作の教員用支援DVDに集約された独自の学習指導内容が、全ての学年のダンス教育に応用可能となるユニバーサルな教育方法であると考え、本報では、これまで未検討であった中学生や高校生に対する学習指導への応用の可能性を検討することにした。具体的には、中学校や高等学校における「ダンス」を対象とした先行研究

の動向を概括し、中学生や高校生向けのダンス教材の特徴をまとめる。特に、筆者が着目する「新聞紙」を教材とした実践事例を中心に基礎資料を収集し、必修化により初めてダンスを指導する教師にとっても取り組みやすい中学生や高校生を対象としたダンス教材がどのようなものか、さらにその学習指導内容や指導法を普及させるためにどのような工夫がなされているか等を検討する。

II 方法

1. 対象とした文献資料

本報における文献資料は、既報(畑野・久山, 2015)と同様に、表現・ダンス実践をコンテンツとしている代表的な発刊雑誌である「女子体育」を対象とする。「女子体育」を取り上げる理由は、それが我が国のダンス教育を牽引してきた日本女子体育連盟(1954年設立)の機関誌であり、幼・小・中・高・大の学校体育や生涯スポーツの指導に役立つように、保育や教育の現場における様々な場面でのダンス指導をわかりやすく紹介していることによる。その「女子体育」の中でも、本報では、学習指導要領が前々回改訂された1989年3月～1998年11月(I期)及び、学習指導要領が前回改訂された1998年12月～2008年2月(II期)の20年間に及ぶ月刊誌を対象とする。なお、本報では、表記上、I期及び、II期と示すこととする。また、「新聞紙」を学習単元に組み込んだ数多くの報告の中から、今回は、ダンス領域の立場から、中学校と高等学校における取り組みの内容に関する記述があった報告を取り上げる。なお、I期及び、II期の時期における中学校・高等学校における実践例に関して、既報(畑野・久山, 2015)で取り上げた幼稚園等、小学校、大学(教員養成対象)における授業等の実践報告と、講習会における新聞紙を用いた提示事例と複合的に含んでいる報告は、割愛する。

2. 文献資料に関する手続き

収集した資料の内容から、新聞紙を用いた授業等の実践報告等を抽出した。具体的な内容に関し

ては、校種ごと指導要領の年代ごとに分類して概括する。なお、年代は前述したように、本報の表記上、I期(学習指導要領が前々回改訂された1989年3月～1998年11月)、II期(指導要領が前回改訂された1998年12月～2008年2月)に分けて概括する。

III 結果

結果に関しては、「新聞紙を用いた授業の取り組み」について中学校と高等学校ごとに、述べていく。なお、「新聞紙」を用いた授業における具体的な様子に関しては、しばしばみられる動きを図1～図4(図1. 新聞紙くぐり、図2. 新聞紙の動きの模倣①(ピンと張る)、図3. 新聞紙の動きの模倣②(ねじる)、図4. 新聞紙の動きの模倣③(ひらひらする))にイラストで示す。



図1. 「新聞紙」くぐり

1. 中学校・高等学校における「新聞紙」を用いた授業の実践報告の分析基準

実践報告の概要におけるキーフレーズの抽出については、既報において実施した方法に基づくこととした。すなわち、幼稚園等、小学校、大学（教員養成対象の授業）における「新聞紙」を用いた授業等の実践報告と講習会における「新聞紙」を用いた授業等の提示事例に関して、ダンス教育研究者2名で検討した。その結果、多くの報告者の内容は、大きく「『新聞紙』を取り上げた理由」、「授業のねらい」、「生徒の感想」、「教師の感想・考察等」の4つに分けられると判断した。なお、それぞれの実践の中で、特に報告されていないものに関しては記載しない。このようにして、「新聞紙」を用いた授業の実践報告に関して、上記のキーフレーズ等を観点としてまとめた。その結果を表1-1、表1-2、表2-1、表2-2に示す。具体的な内容に関しては、校種ごとに概括することとする。

2. 中学校における「新聞紙」を用いた授業の実践報告

2.1. I期（1989年3月～1998年11月）

中学校におけるI期の実践報告は、12件みられ、内2件は高等学校と重複した実践報告であった。これらの報告でも、「新聞紙」に関する多様なキーフレーズが抽出された。そのキーフレーズを4つの内容ごとに、表1-1に示した。具体的にみると、「『新聞紙』を取り上げた理由」において腰高は、「はずかしさや遠慮を取り払い。これがダンスかと思わせるような動きの発見。無心になっていつの間にか思い切り動いていた、という満足感」と記している。また、その授業では、「思ったより楽しい、新聞紙でたくさん動きを見つかった」という生徒の感想がみられた。

2.2. II期（1998年12月～2008年2月）

中学校におけるII期の実践報告は、11件みられた。これらの報告でも、「新聞紙」に関する多様なキーフレーズが抽出された。そのキーフレー

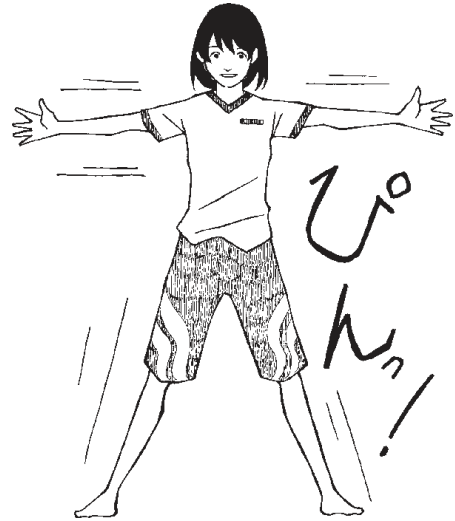


図2. 「新聞紙」の動きの模倣①（ピンと張る）



図3. 「新聞紙」の動きの模倣②（ねじる）



図4. 「新聞紙」の動きの模倣③（ひらひらする）

ズを4つの内容ごとに、表1-2に示した。

具体的にみると、『『新聞紙』を取り上げた理由』において熊谷・藤田(2003)は、「初めてダンスに取り組む生徒、初めてダンスの授業を指導する先生、課題学習の導入、初めて取り組む課題として『新聞紙』は最適、知らず知らずのうちに楽しく動きを発見できる。ダンスの先入観を取り除けるというよさ」と記している。また、その授業では、『『意外に面白い!』『新聞紙の気持ちがわかった!』『新聞紙だけに集中していると、自然に体が動くんだ』など、ダンスに対して構えていた心がほぐれ『私でもできそうだ』』という生徒の感想がみられた。さらに、「前向きの姿勢が見られるようになります。加えて、身近なもので動きを発見できることや改めてそのものをよく観察できる」という指導者の考察が記されている。

3. 高等学校における「新聞紙」を用いた授業の実践報告

3.1. I期(1989年3月～1998年11月)

高等学校におけるI期の実践報告は、6件みられ、内2件は中学校と重複した実践報告であった。これらの報告でも、「新聞紙」に関する多様なキーワードが抽出された。そのキーワードを4つの内容ごとに、表2-1に示した。

具体的にみると、『『新聞紙』を取り上げた理由』において高野(1991)は、「ものを持つことで、羞恥心に煩わされることなく動きを引き出せる、運動課題的にひと流れの動きに、運動量も多く、我を忘れて精一杯動ける」と記している。また、その授業では、「新聞紙になり切って動けた。あんなにも自分になりきれなんて思わなかった。とてもおもしろかった」という生徒の感想がみられた。さらに、「遊び心を刺激されて、心身が解放されて自由に動ける」という指導者の考察が記されている。また、この実践を踏まえた後、同じ報告者である高野(1996)は、取り上げた理由として、「無理なく学習が進められる」と記している。授業のねらいについては、「自意識をなくし、全身で精一杯動き楽しみつ、ダンスの世界に

導く」と記している。また、その授業では、「恥を捨てて新聞紙と遊んだ。いろいろとおもしろい発見があった。新聞紙一枚で、気持ちやあるものの動きを自分なりに表現できることはすごい」という生徒の感想がみられた。さらに、「生徒の持つ過去のダンスの概念を払拭し、ダンスを自由なもの、楽しいものと捉える課題として有効であった」という指導者の考察が記されている。

3.2. II期(1998年12月～2008年2月)

高等学校におけるII期の実践報告に関する結果については、16件みられた。これらの報告でも、「新聞紙」に関する多様なキーワードが抽出された。そのキーワードを4つの内容ごとに、表2-2に示した。

具体的にみると、『『新聞紙』を取り上げた理由』において時得(2003)は、「少ない授業数で『いかに生徒の心と体をほぐすか』」と記している。授業のねらいについては、「新聞紙を手がかりに、気軽に表現の世界に入る」と記している。また、その授業では、「新聞紙がただの紙ではなく、色々なものに見えてきた」という生徒の感想がみられた。さらに、「今までのダンスに対するイメージとはかなり違い、戸惑っていた、身近なものでもダンスになるということで、表現の世界を身近なものに感じさせた、これなら生徒に何とか楽しい授業ができる」という指導者の考察が記されている。

またこの実践以外にも、片寄(2004)は、「創作ダンスへのチャレンジ～教師と生徒が共に歩んだ9時間+ α ～」と題し、「新聞紙」を導入とした創作ダンスの学習指導過程に関して、次のように詳細に報告している。『『新聞紙』を取り上げた理由』に関して、「創作ダンスに対する意識変化と、創作する楽しさや、連結感・充実感などを生徒と一緒に味わえたら」と記されている。また、その授業では、次のような生徒の感想がみられた。「簡単にできた」「最初は恥ずかしかったけど、友達と一緒にだと楽しかった」「おもしろかった」「こんなものでいいのかな…」「新聞紙の新た

表 1-1. 中学校のダンス授業における新聞紙を用いた実践報告 (I 期)

年	題名	名前	取り上げた理由	キープレーズ			指導者の考察
				心解放 心も自由に動かす とまりの動きを集中して踊りきる	授業のねらい ひとま	生徒の感想	
1990	単元計画作成の視点	中村なおみ・宮本乙女					
1990	男女共修のダンス—感性やこころの教育へ—	中村なおみ			ダンスとして抱いているイメージを壊し遊びながらからだところをほぐすひとままりの動きを集中して踊りきる		
1991	中学校期を生かすダンス	中村なおみ				びっくりしたとんでもないことをする授業	固定的なダンス像を打ちくたく意識過剰になることもなく導入の課題として生徒を生かすことができる
1991	ダンス・オリエンテーション—いつの間にかダンスにか、ダンスの世界へ—	松本富子・島内敏子	初めてのダンス学習の導入 いつの間にかダンスの世界に接近 物をつかって・遊びから新鮮でいて、面白くやさしくでき、しかも、「ダンス」の骨子(ダンス運動の課題)が隠されている				
1992	はじめてのダンス—基本的な段階の学習の進め方—	中村なおみ・宮本乙女	初めてダンスを経験する生徒 物を持つことで意識が薄れる。そのため遊び感覚で自由に動くことができる 自然といろいろなからだの動きを開発	気持ちや身体をほぐす 考え込まずに、体全体を思いきり動かして楽しむ			
1992	育て個性と敬愛 六年一貫教育—自ら創り出す舞踊発表会—	浮田種子		身体の可動範囲を広げる ひと流れの動き			
1994	課題学習のまとめと次の目標—一時間完結学習から作品づくりの単元へ—	宮本乙女					
1995	ティームティーチングにおける男女共修のダンス	関しづ香		心と身体をひらく 新聞の動き(新聞自体の動きと持っている人の動き)をふくらませて考えて動く			
1996	中高一貫教育の中の中学1・2年生の単元計画—この2年を振り返って—	熊谷昌子	自意識が入り込む余地がない程の運動量が確保できる運動量が豊富ながむしやに動くことのできる課題	ダンスに対する先入観を取り除く。思い切り身体を動かす			
1996	男女共修のダンス—やってみよう、初めて6時間—	佐藤みどり・宮本乙女	ダンスを敬遠するような気分を知らずに取り除く	思いきり身体を使う			
1997	「先行研究に基づく課題学習」にはじめて取り組んで	腰高真弓	はずかしさや遠慮を取り払い これがダンスかと思わせるような動きの発見 無心になっていつの間にか思い切り動いていた、という満足感			思ったより楽しい、新聞紙でたくさん動きを見つけた	
1997	心の開放をめざして—3年間を見通したダンスの授業—	三沢共香	ダンスの授業を丸かえりで体験でき、手軽に取り組める良さがある	色々な動きをみつけて動く 心地よいひと流れにする 動きの質感のちがいをだす			

表 1-2. 中学校のダンス授業における新聞紙を用いた実践報告(Ⅱ期)

年	名前	題名	取り上げた理由	授業のねらい	キーフレーズ	
					生徒の感想	指導者の考察
1998	庄治恵子	「生きる力」を育む 男女共習ダンス授業				男子のユニークな発想 いろいろな変化をからだの面白い作り方で楽しむ
1998	宮本乙女	ダンスカリキュラムを作る(その1)		思いきり身体を投げ出してダンスの世界に入ろうものにつられて気軽にダンスの世界へ		
1998	三宅香 高野章子 大庭千世子	課題別選択指導のポイントをつかむ	ものを手がかりにしてできる気持さ 材質としての自在さ 心身を解放し、変身し、精一杯エネルギーを発散させるところから、作品化まで広く応用			
1999	村上淳子	私のダンス実践	思いきり自由に、体を動かせたいと思い 小学校での表現運動の経験があまりなく			スムーズな動きの展開 恥ずかしさが取り除かれるのが、活発で意欲的な動き その物に張りきることでもユニークな発想が動きとなつて表面化 テクニクやテーマがなくても表現感がにじみ出てきて創った喜びを互いに満足し合う発表
1999	中村なおみ	気持ちを導かしこんで、からだを変えらることは		体を投げ出して、本気で遊ばせたい 体を投げ出して、本気で遊ばせたい		
2002	小川倫子	ダンス学習との出逢いを創り出す	生徒の願いと教師の願いをより深く結びつける教材のあり方 夢中に為ることができる教材である心の中の思いを解き放ち自分の体を使って動くことの楽しさと友だちとのかかわりの中で安心感を味わわせていく	心をほぐすこと「体を自由に動かすことができるようになる」ことを		自分の思いを自由に表現し、驚くばかりの笑顔にあふれている 自分の思いを自由に表現し、驚くばかりの笑顔にあふれている 自分
2003	藤田久美子	連年のダンス単元計画実践例		いかに楽しくできるかが重要なポイント 新聞紙を手がかりにたくさん動きを発見 新聞紙を		
2003	熊谷昌子 藤田久美子	初めの先生でもできる課題学習によるダンス	初めてダンスに取り組む生徒 初めてダンスの授業を指導する先生 課題学習の導入 初めて取り組む課題として「新聞紙」は普通 知らず知らずのうちに楽しく動きを発見できる。ダンスの先入観を取り除ける、というよさ		「意外に面白い!」「新聞紙の気持ちたちがわかった!」「新聞紙だけに集中している」と、自然に体が動くんだ!など、ダンスに対して構えていた心がほぐれ「私でもできそうだ」	前向きな姿勢が見られるようになります。加えて、身近なもので動きが発見できることや改めてそのものをよく観察できるように
2003	松本千代栄	問題解決学習とダンス		一人一人が気軽に開放され「自由に」楽しくてできる「ダンスっていいなあ」ダンスに目覚め、「挑戦し、」遊で協力して「工夫も凝らして」踊る喜びを美	ダンスというものがみんなに自由にできるものだとほわなかつた。・ダンスっていいなあと思った。いろんなものが表現できる、とても楽しかった。	はじめてのダンス学習を体験した高校男子クラスの感想からには、1時間毎に、表現の世界にひき入れられる笑顔が読みとられる
2005	藤田久美子	初めてのダンス～緊張のほぐしと言葉かけ～			ほとんどの生徒は緊張がほぐれ、楽しいと感じている。夜はもっとこうしたいというような抱負「しんぶんし」新聞と同じ動きをするのが楽しかったです。やる前は自分で考えるダンスなんてと膝が引けていましたが、やってみたらすぐ楽しくなった。ありきたりな動きばかりになってしまったので、次はもっと工夫できるように頑張りたい。課題について作るのは難しいかと思つたが、楽しくできました。今度からは恥ずかしがらずに楽しくダンスをしたい。みんなで精一杯体を動かすのは、とても楽しいと思いました。いろいろな課題で飽きはないダンスを作りたいです。大きく動いて、ダンスの楽しさを初めて知りました。必死でした。1つのものでいろいろな動きができるのはすごいと思つた。新聞なんてとばかりにしないで、真剣に踊り組むことで楽しさを感じることができました。今回は恥ずかしくて大きく動けなかつたので、次回はもっと大胆に踊りたいです。いっぱい練習すると、それだけで恥ずかしさがなくなつた。新聞もよく観察すればいろいろな表情があるの・大きく動くと気持ちよかつた。スムーズに表現できた。もうレベルを高めたい。大きく動く現することがみんなに大切かわかつた。	つかみはオツケーというところ。自分でも何年も繰り返していくうちに、やっと最初の1、2時間は生徒たちをグッと引きつける自信が出てきた。遠くについている生徒を助ると、「よー! よー! やってやろうじゃないの、ダンスは楽しいって言わせてやるー」どはりきってやろうやろうになってきた。しかし、本当の願いはここからだ。連年のダンス単元はとても長い。なかなか思うよういかないときも多い。教師の気持ちたちが素直に生徒に伝わるので、こちらも気持ちよく観察し、それに応じた適切な言葉かけができるようになりたいと思った。
2007	七澤未言	豊かな感性を育むダンス単元～ライブ感を生み出す授業の手立て～		「表現」とは多様で自由なものであることを体験させる。さらに(走る・止まる)では動きのメリハリ、つまり動と静を体験させる。特に「止まる」ことが表現を豊かにする要素であることを学ぶ。		

表 2-1. 高等学校のダンス授業における新聞紙を用いた実践報告 (I 期)

年	題名	名前	キーフレーズ			
			取り上げた理由	授業のねらい	生徒の感想	指導者の考察
1991	課題学習と学習法—単元の実践例から—	高野章子	ものを持つことで、羞恥心に煩わされることがなく動きを引き出せる 運動課題的にひと流れの動きに 運動量も多く、我を忘れて精一杯動ける		新聞紙になり切って動けた。あんなにも自分がなりきれるなんて思わなかった。とてもおもしろかった	遊び心を刺激されて 心身が解放されて自由に動けるように
1991	高等学校…1年間を通して—長い単元の解放(自己表現は生涯目標)	田村麗子	心や身体を解放 自己を実現			いつのまにか動くことの恥ずかしさや、とまどいはなくなつて心と身体はほぐれてきます。そこからイメージは広がっていきます ・心がほぐれて自由に極限まで動かし
1991	ダンス・オリエンテーション—いつのまにか、ダンスの世界へ—	松本富子・島内敏子	初めてのダンス学習の導入 物の間にかダンスの世界に接近 物をつかって・遊びから 新鮮でいて、面白くやさしくでき、しかも、「ダンス」の骨子(ダンス運動の課題)が隠されている			
1996	課題学習によるダンス単元—年生の—実践から—	高野章子	無理なく学習が進められる	自意識をなくし、全身で精一杯動き楽しみつ、ダンスの世界に導く	恥を捨てて新聞紙と遊んだ。いろいろなとおもしろい発見があった。新聞紙一枚で、気持ちやあるものの動きを自分なりに表現できることはすごい	生徒の持つ過去のダンスの概念を払拭し、ダンスを自由なもの、楽しいものとする課題として有効であった
1996	男女共修のダンス—やってみよう、初めての6時間—	佐藤みどり・宮本乙女	ダンスを敬遠するような気分を知らずに取り除く	思いっきり身体を使う		
1997	共感を生きたエネルギーに変える授業をめざして—「しんぶん」の学習を手がかりにして	村上恭子(松本千代栄)			みんなでひとつの作品を創ったことが楽しかったよう 仲間の表現や個性を認めあうことが、自分自身の動きを生み出す契機になったよう 友達と協力する楽しさ	仲間づくりのグループワークには有効

な使い方発見」「もう少しやっても良かったかも…」等である。また、授業時間の合言葉が感想に見られ、生徒が授業でそれらを達成したことがわかる様子が伝わってくる。授業を重ねるとともに、創作ダンスに対する意識の変化も十分にあらわれてきている。そして、「やってよかった」「こんなに熱くなったのは高校入って初めて」「いい思い出ができた」「クラスがはじめて団結できた」「〇〇ちゃんが踊るとは思ってもみなかった」「青春した」「ステージに立って緊張したけど快感だった」「チャレンジしてよかった」さらに、指導者の考察等は、次のように記されている。「今回の新聞紙で、これだけの作品ができるとは、私自身も予想していなかったのが驚いたと共に生徒の意欲と創造力に感心した。『花火やってみよう』の感想から、創作ダンスに対する意欲をもう少し深めることができるという手ごたえを感じた。そこで、当初予定していた3時間を延長し、生徒同士の評価が高かった『花火』と『波』を発展させて続きを創作することにした。生徒たちが創作ダンスを通して、達成感や踊ることの楽しさを十分に味わうことができ良かったと思った。また、最初は、できるかどうか不安で、悩んだりもしたが、こんなにも広がりを見せるとは思ってもみなかった。正直なところ、私自身とても驚いたとともに、精一杯取り組んでくれた生徒に心から感謝している。専門家ならば、的確なアドバイスや動きの指示ができるのだが、経験浅い私にとって伝えられることはごくわずか。それでも、生徒と一緒に作り上げたという達成感と一体感を私も感じる事ができた。この多くの成果をこれからの授業に役立てて行きたいと思う。」このような「新聞紙」を導入とした創作ダンスの学習指導過程は、ダンス初心者への指導に関する有益な情報を提供していると思われる。

IV 考 察

以上、順に述べてきた中学校でのⅠ期・Ⅱ期における実践事例、高等学校でのⅠ期・Ⅱ期における実践事例について総括し、考察を試みる。中学

校でのⅠ期・Ⅱ期、高等学校でのⅠ期・Ⅱ期、いずれにおいても、「新聞紙」から広がる表現は、ものを持つことで、恥ずかしさの軽減を促し、自然に動きを引き出せる等様々な効果があり、特に楽しさの追及、多様な動きにつながり、心身の解放につながると示唆される。

Ⅰ期についてみると、それ以前の学習指導要領から、体育科の目標「運動に親しむ習慣を育てる」（文部省，1989a）が反映され始めた時期である。中学校では、個人差にも配慮され、男女共修や選択性が導入された。高等学校でも同様に、学習指導要領（文部省，1989b）に示されている保健体育科体育の目標である「生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる」が、反映され始めた時期である。そして、ダンスに関しては、その内容として次のように記されている。「次の運動の技能を身に付け、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする」と記され、「創作ダンス」、「フォークダンス」が示されている（文部省，1989a，pp.78-79）（文部省，1989b，p.89）。したがって、その中でも「楽しく」がキーワードとなっており、指導者に「楽しい体育」への観点が反映されているものと考えられる。

また、Ⅱ期についてみても、中学校学習指導要領（文部省，1998）、高等学校学習指導要領（文部省，1999）のいずれにおいても、同様の主旨で体育科の目標が示されている。さらに、Ⅱ期の平成10年の学習指導要領において、従来の学習指導要領にみられる「創作ダンス」、「フォークダンス」に加え、新たに「現代的なリズムのダンス」が取り入れられた（文部省，1998，1999）。「現代的なリズムのダンス」とは、現代的なリズムにのって、自由に相手と対応して踊ったり、まとまりのある動きを工夫して踊ったりするとされている。つまり、Ⅱ期の平成10年以降は、リズムの特徴をとらえ、リズムに乗って全身で踊るという新しい学習指導内容が注目され始めた時期である。そのため創作ダンスという立場から見ると、従来のイメージをとらえたり深めたりして表現す

る創作ダンス指導への時間的な制約に苦慮もあったと推察される。「現代的なリズムのダンス」導入という新しい学習環境の中で、「新聞紙」を導入とした創作ダンスの学習指導過程に関する実践報告は、指導経験の少ない教師にとっても、創作ダンス指導への示唆を与えていると思われる。また、「新聞紙」を用いた授業は、他の実践報告においても、前述した実践のように、ダンス単位の中で導入として実施されることが多くみられた。したがって、「新聞紙」を用いた学習活動は、授業の導入段階で心身を解放し、人とのかかわりをスムーズにすることで、その後の学習をより効果的に促すことがうかがえる。このような「新聞紙」を用いた学習効果は、幼稚園等、小学校、大学（教員養成）、講習会における授業等の実践報告や提示事例に関する筆者らの報告（畑野・久山，2015）でも指摘されている。

さらに、筆者らが既報（畑野・久山，2015）で指摘した「新聞紙」をどのように扱っているかに着目してみる。扱い方について、既報（畑野・久山，2015）では、「新聞紙を使って遊ぶ」、「新聞紙になって動く」、「新聞紙を何かに見立てる」という3つに大別した。本報においても同様に、実践報告全体では、「新聞紙を使って遊ぶ」「新聞紙になって動く」が多かった。そして、そこからの発展として「新聞紙を何かに見立て」、創作ダンスへと授業を展開している報告もみられた。

以上のことを踏まえて、「新聞紙」を用いた授業に関してまとめると、松本ら（2004）が述べように、ダンスの授業における「新聞紙」は、中学生・高校生を含む幼児から大学生・大人までを対象として、授業における導入として心身をほぐし、コミュニケーションを図る等に効果的と思われる。また、学習者の発達段階や経験の差異に基づき教材の難易度を変えることにより、どの年代・どのようなダンス経験においても効果的な汎用性の高い教材であるといえる。このことは、本報での分析対象の時期から外れるものの、「男子による男子のためのダンス～初めての表現授業を振り返って～」（高橋，2008）においても言及さ

れている。また、初心者への指導については、「中学で初めて出会うダンス単元の展開～中学校1年生、男女共習のダンスの授業～」（川村，2013）にもみられる。さらに、ダンス指導ハンドブック「初めての指導・一歩進んだ指導」において、寺山（2009）、高橋（2009）や細川（2009）によっても指摘され、提案されている。

以上のことから、ダンス指導に苦手意識のある教師にとっても、取り組みやすい教材として、「新聞紙」を用いた学習指導は、ダンスの授業の導入段階で取り上げられる場合が多く見られる。具体的には、ダンスの授業という枠組みにとらわれず、誰もが体験できるやさしい運動による体ほぐしの運動感覚から、「新聞紙」を模倣して楽しんで動いていたら、いつのまにかそれが自然にダンスへと繋がっていくような学習指導過程となっている。つまり、「新聞紙」を用いた学習活動自体が、ダンスの授業における学習指導内容やその指導法に繋がると思われる。

教師の指導に関しては、生徒が「新聞紙」になって夢中になって動き、心身を解放して活動できるような教師の言葉かけ等が重要となってくる。その際、「新聞紙」の操作やそれに伴う模倣の動きから、生徒同士のコミュニケーションが生まれやすい学習環境への配慮も重要と思われる。また、「新聞紙」の動きの模倣では、「新聞紙」になりきって、伸びる・ねじる・跳ぶ・転がる・回る等の多様な動きが導き出せるような言葉かけに工夫が必要となろう。そして、目の前で動く「新聞紙」からイメージを広げ、動きのバリエーションを増やし、自分達で自分達なりのダンスを創ることが出来ると誰もが実感できる授業へと展開できると思われる。

V 総 括

本報では、これまで筆者が未検討であった中学校・高等学校におけるダンスの学習指導内容と指導法に関して考察するために、1989年3月から20年間に及ぶ月刊誌「女子体育」を対象として、「新聞紙」を教材とした実践報告を検討した。

そして、「新聞紙」に関するダンスの実践報告は幾多かみられ、それらの特徴をまとめた。その結果、小学校・大学等と同様に、気軽に取り組めて楽しめるダンスの授業の導入として、心身を解放して多様な動きに繋がるダンスの学習指導内容やその指導法に展開できるということが、多くの実践報告で指摘されていた。このことから、中学校・高等学校においても、「新聞紙」を用いた学習指導は、必修化により初めてダンスを指導する教師にとっても取り組みやすい、効果的な教材であることが再確認できた。今後、これまで筆者らが取り組んできた教員用支援DVDに象徴される表現運動・ダンスに関する教材開発をさらに深め、「新聞紙」のように身近なものを用いてダンスへと展開できる授業に対するヒントとなるプログラムを実践し、体育科の学習指導内容と指導法に関する検討を重ねたい。

VI 文 献

- 藤田久美子 (2003) 通年のダンス単元計画実践例. 女子体育, 45-5 : 34-37.
- 藤田久美子 (2005) 初めてのダンス～緊張のほぐしと言葉かけ～. 女子体育, 47-6 : 34-39.
- 畑野裕子 (1988) ダンスの授業の好嫌を規定する楽しさ要因の検討—中学生を対象として—. 兵庫教育大学研究紀要, 8 : 133-148.
- 畑野裕子 (1989) ダンスの授業の好嫌を規定する楽しさ要因の検討 (Ⅱ)—高校生を対象として—. 兵庫教育大学研究紀要, 9 : 125-139.
- 畑野裕子 (1996) 子どもの健康…心とからだ…実技編. 三晃書房, pp.122-131.
- 畑野裕子 (2008) 「体育科における「表現運動」「ダンス」領域に関する学習指導内容と教材開発」.(日本教材学会編, 「教材学」現状と展望). 協同出版, pp.280-292.
- 畑野裕子 (2013) ダンス教材. (日本教材学会編, 教材事典: 教材研究の理論と実践). 東京堂出版, pp.378-379, 392-393.
- 畑野裕子, 久山素子 (2011) 「表現」を取り扱う授業実施を促すためのDVD作成の試み—K市立小学校教員を対象として—. 児童教育学研究, 30 : 81-93.
- 畑野裕子, 久山素子 (2012a) 教員用支援DVDを用いた「表現」の授業に関する実践的検討—K市立小学校教員を対象とした事例—. 児童教育学研究, 31 : 85-93.
- 畑野裕子, 久山素子 (2012b) 教員用支援DVDを用いた「表現」の授業に関する実践的検討 (Ⅱ)—K市立小学校教員を対象とした追試—. 神戸親和女子大学教育研究センター紀要, 8 : 35-41.
- 畑野裕子, 久山素子 (2015) 「身体表現技術」の学習内容に関する一考察—「新聞紙」を題材とした幼児の表現への可能性の検討—. 児童教育学研究, 34 : 33-48.
- 林敦子 (2006) 即興表現から作品作りへ. 女子体育, 48-9 : 20-25.
- 細川江利子 (2009) ダンス指導ハンドブック—初めての指導・一歩進んだ指導—Ⅱ実技指導編 表現・創作ダンス (13) 新聞紙③発展編・新聞紙のボール. 女子体育, 51-7・8 : 56-57.
- 細川孝博 (2011) 互いに認め合い, 自由に自分を表現できる生徒の育成を目指して～生徒を変えるダンスの授業のヒント～. 女子体育, 53-2 : 20-25.
- 片寄昌子 (2005) 創作ダンスへのチャレンジ～教師と生徒が共に歩んだ9時間+α～. 女子体育, 47-6 : 40-43.
- 川村由美 (2013) 中学で初めて出会うダンス単元の展開～中学校1年生, 男女共習のダンスの授業～. 女子体育, 55-4・5 : 22-27.
- 君和田雅子 (2000) 選択授業のダンス単元と実践. 女子体育, 42-6 : 41-44.
- 君和田雅子 (2003) 「ゆきふりつむ」ができるまで…作品化につながることばかけ. 女子体育, 45-4 : 44-47.
- 腰高真弓 (1997) 「先行研究に基づく課題学習」にはじめて取り組んで. 女子体育, 39-5 : 28-32.
- 熊谷昌子 (1996) 中高一貫教育の中の中学1・2年生の単元計画—この2年を振り返って—.

- 女子体育, 38-5 : 28-31.
- 熊谷昌子 藤田久美子 (2003) 初心の先生でもできる課題学習によるダンス. 女子体育, 45-7・8 : 58-60.
- 松本富子 島内敏子 (1991) ダンス・オリエンテーション—いつのまにか, ダンスの世界へ—. 女子体育, 33-8 : 32-35.
- 松本千代栄 (2003) 問題解決学習とダンス. 女子体育, 45-7・8 : 54-57.
- 松本千代栄 宮本乙女 中村なおみ (2004) 感受するところ 発信するからだ—目で見るダンス授業—. 女子体育, 46-4 : 48-59.
- 宮本乙女 (1994) 課題学習のまとめと次の目標——時間完結学習から作品づくりの単元へ—. 女子体育, 36-1 : 30-33.
- 三沢共香 (1997) 心の開放をめざして—3年間を見通したダンスの授業—. 女子体育, 39-11 : 26-29.
- 宮本乙女 (1998) ダンスカリキュラムを作る (その1). 女子体育, 40-4 : 28-31.
- 三宅香 高野章子 大庭千世子 (1998) 課題別選択 指導のポイントをつかむ. 女子体育, 40-7 : 26.
- 宮本乙女 君和田雅子 (2005) 課題学習の基本的な実践方法. 女子体育, 47-7・8 : 58-61.
- 宮本乙女 (2008) ダンス学習と即興性. 女子体育, 50-4 : 20-25.
- 文部科学省 (2008a) 中学校学習指導要領. 東山書房, pp.85-94.
- 文部科学省 (2008b) 中学校学習指導要領解説 保健体育編. 東山書房, pp.118-131.
- 文部科学省 (2009a) 高等学校学習指導要領. 東山書房, pp.90-94.
- 文部科学省 (2009b) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編. 東山書房, pp.86-95.
- 文部省 (1989a) 中学校学習指導要領 (平成元年告示). 大蔵省印刷局, pp.76-81.
- 文部省 (1989b) 高等学校学習指導要領 (平成元年告示). 大蔵省印刷局, pp.88-91.
- 文部省 (1998) 中学校学習指導要領 大蔵省印刷局, pp.71-79.
- 文部省 (1999) 高等学校学習指導要領 大蔵省印刷局, pp.96-100.
- 村上恭子 (松本千代栄) (1997) 共感を生きるエネルギーに変える授業をめざして—「しんぶんし」の学習を手がかりにして. 女子体育, 39-11 : 30-34.
- 村上淳子 (1999) 私のダンス実践. 女子体育, 41-1 : 29-32.
- 村田芳子 (1998) 楽しい表現運動・ダンス. 小学館. 38-41.
- 中村なおみ 宮本乙女 (1990) 単元計画作成の視点. 女子体育, 32-4 : 30-33.
- 中村なおみ (1990) 男女共修のダンス—感性やこころの教育へ—. 女子体育, 32-8 : 38-39.
- 中村なおみ (1991) 中学校期を生かすダンス. 女子体育, 33-4 : 28-31.
- 中村なおみ 宮本乙女 (1992) はじめてのダンス—基本的な段階の学習の進め方—. 女子体育, 34-8 : 28-31.
- 中村なおみ (1999) 気持ちを溶かしこんで, からだを変えることば. 女子体育, 41-4 : 41-44.
- 七澤朱音 中村なおみ (2004) 授業の「ふり返り」から生まれてくる原動力. 女子体育, 46-6 : 38-43.
- 七澤朱音 (2007) 豊かな感性を育むダンス単元～ライブ感を生み出す授業の手立て～. 女子体育, 49-10 : 20-25.
- 小川倫子 (2002) ダンス学習との出会いを創り出す. 女子体育, 44-10 : 35-38.
- 岡野芳枝 (2005) 初めての課題学習の実践. 女子体育, 47-3 : 44-47.
- 大庭千世子 (2002) ダンス単元で何を感じ, どんなことに気づき, 何を学んだのか. 女子体育, 44-4 : 37-40.
- 大庭千世子 (2004) 表現の基礎を学ばせるしんぶんしの授業. 女子体育, 46-2 : 34-37.
- 太田一枝 (2009) 「変わる」瞬間を共有するダンスの授業～本気になるからだ～. 女子体育, 51-4 : 20-25.

佐藤みどり・宮本乙女（1996）男女共修のダンス—やってみよう，初めての6時間—。女子体育，7：34-35.

関しづ香（1995）ティームティーチングにおける男女共修のダンス。女子体育，37-12：30-33.

仙波由紀（2003）校内創作ダンス発表会に至るまでの実践例。女子体育，45-1：40-43.

勢畑多恵子（2005）主題の深化「心を表現したい」。女子体育，47-10：40-43.

庄治恵子（1998）「生きる力」を育む 男女共習ダンス授業。女子体育，40-1：25-28.

高野章子（1991）課題学習と学習法—単元の実践例から—。女子体育，33-6：34-37.

田村麗子（1991）高等学校…1年間を通して—長い単元 個の解放（自己表現は生涯目標）。女子体育，33-11：38-41.

高野章子（1996）課題学習によるダンス単元—一年生の実践から—。女子体育，38-1：35-39.

高野章子（2001）高校生男子生徒がエネルギーを出し切ったダンスの授業。女子体育，43-6：40-43.

高野章子（2003）心を解きほぐして身体のリズムからわき出す表現へ。女子体育，45-5：38-43.

竹添美樹（2004）通信制高校でのダンスの取り組み。女子体育，46-1：40-43.

高野章子（2004）創り，踊り，観る ダンスの楽しさをつかんだ男子・女子の授業。女子体育，46-10：42-47.

高橋孝介（2008）男子による 男子のためのダンス～初めての表現授業を振り返って～。女子体育，50-10：20-25.

高橋和子（2009）ダンス指導ハンドブック—初めての指導・一歩進んだ指導—Ⅱ実技指導編 表現・創作ダンス（12）新聞紙②新聞紙になって。女子体育，51-7・8：54-55.

高橋和子（2014-15）教材「新聞紙」で何を学ぶのか（講習会）。女子体育，57-12・1：61.

寺山由美（2009）ダンス指導ハンドブック—初めての指導・一歩進んだ指導—Ⅱ実技指導編 表現・創作ダンス（11）新聞紙①新聞紙で遊

ぶ。女子体育，51-7・8：52-53.

時得美樹（2001）物を活かしての課題学習法の実践。女子体育，43-9：41-44.

時得美樹（2003）ダンスを通して互いの関わりから学ぶこと。女子体育，45-6：40-43.

浮田檀子（1992）育て個性と敬愛 六年一貫教育—自ら創り出す舞踊発表会—。女子体育，34-11：36-39.

VI 謝 辞

本報における貴重な資料である月刊誌「女子体育」の提供にご協力を頂きました、久山素子先生（神戸親和女子大学非常勤講師・兵庫県女子体育連盟神戸支部長）に感謝の意を表します。

VII 付 記

本研究は、科研費（JSPS KAKENHI JP C 2638292）の助成を受けたものである。